# 病　院　だ よ り　　2017年6月号　第355号

発　行　昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者　昭和大学病院長　板 橋　家頭夫
編集責任者　広 報 委 員 長　中 村　清　吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
ＴＥＬ：03-3784-8000（代表）

昭和大学病院　検索　　昭和大学病院附属東病院　検索

## 医療安全管理部門長就任のご挨拶

**昭和大学病院　副院長　小林　洋一**

今回平成 29 年４月１日から医療安全管理部門の部門長に就任した小林洋一です。就任後一か月になりましたが、まだ業務になれるのに手間取っているところです。医療安全は予防医学に通じ、アクシデントに至る前に予知予防するシステムを構築することが目的です。また、医療はリスクとベネフィットのバランスが肝要です。リスクを軽減し、よりよい医療が提供できるように微力ながら努力したいと思います。今まで循環器部門長を務めていて、医療安全にはスムースに移行できると過信していましたが、病院全体の医療安全を一手に引き受けるとなると、なかなか予想できないことも飛び込んでくるので、今までとは違う頭を使っています。今までの医療安全は結果を中心に、ごく一部を理解していたにすぎないことが改めて自覚させられているところです。しかし、優秀なスタッフに囲まれているので、「医療安全部門の医療安全」はきっちり保たれていますのでご安心ください。現場は忙しくてヒヤリハットのインシデントレポートを書くのにはエネルギーがいると思いますが、同じことを繰り返さないシステム作りには必須となりますので、後に続く後輩や同輩のためにもご協力をお願いします。今後とも医療安全部門をよろしくお願いします。

## 病院目標について

昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院では毎年病院目標を設定し、その目標に向かって全職員が一丸となって日々の業務に取り組んでいます。

平成 29 年度の病院目標はプロフェッショナリズムを掲げ、下記の 1～5 の項目を設定しました。

### プロフェッショナリズム

1.患者さんにとって安心・安全で信頼される医療を提供する

2.安全管理体制を確保しつつ、高度な急性期医療を提供する

3.職員研修の充実を図る

4.深化したチーム医療を実践し、断らない救急体制をつくる

5.健全な病院運営を図る

## 東病院設置の CT 装置更新の報告

昭和大学病院附属東病院の X 線 CT 検査装置が更新され、GE ヘルスケア・ジャパン社製 Revolution EVO ES(図 1)が新たに導入されました。新しい CT 装置は、1 スキャン（1 回転）で 64 スライスのデータ収集が可能です。また、X 線管も 0.35 秒の速度で回転するため、胸部から腹部骨盤領域を約 10 秒の息止め時間で撮像することができます。その他、指定した臓器・範囲の体表面の被ばくを低減するソフトである ODM（Organ Dose Modulation）により、水晶体や乳房などの高感受性臓器への被ばくを低減することができます。また、体内に留置されている金属インプラントによるアーチファクト低減処理を行うソフトである Smart MAR（Metal Artifact Reduction）（図 2）が搭載され、従来の画像より大幅に画質が向上し診断しやすくなります。

これからもチーム医療の一員として、患者さんにとって安心・安全で信頼される検査を提供して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

図-1 ：Revolution EVO ES（GEヘルスケア・ジャパン社製）

オリジナル画像　Smart MAR画像

図-2 ：Smart MAR

病院医療最前線!!　Vol.10
「皮膚科」

# 平成 29 年 4 月～昭和大学病院附属東病院から昭和大学病院へ移転いたしました

全ての皮膚疾患の診断と治療を行なっています。特に専門領域としているのは重症薬疹、乾癬、皮膚良性・悪性腫瘍の手術やレーザー治療、糖尿病による皮膚病変、足白癬をはじめとする真菌感染症の治療などを行っています。入院の診療は複数の医師による医療チームが担当します。蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や湿疹・皮膚炎、薬疹の治療、皮膚癌の手術や化学療法、乾癬の生物学的製剤の導入、重症脱毛症のステロイドパルス療法、下腿潰瘍の VAC 療法など幅広い疾患の入院治療を行なっています。

## 診療体制

Stevens-Johnson 症候群、toxic epidermal necrolysis（TEN）、薬剤性過敏症症候群（DIHS）などの重症薬疹の早期診断、集約的治療を行っています。乾癬や菌状息肉症などに対する光線療法は全身照射装置の導入により通常の外来と平行して全日施行しています。特殊外来は炭酸ガスレーザーやＱ スイッチ・ルビーレーザーによる治療、真菌の培養・同定や難治性皮膚真菌感染症の治療を行う真菌外来、アトピー外来、ニキビ外来があります。乾癬に対し生物学的製剤による治療も行っています。多発性円形脱毛症に対する SADBE 免疫療法は自費診療で行っています。悪性腫瘍を含む皮膚腫瘍、母斑の外来もしくは入院手術（植皮術を含む)を積極的に行なっております。

## 特徴的な治療領域

- **薬疹（特にｽﾃｨｰﾌﾞﾝｽ・ｼﾞｮﾝｿﾝ症候群などの重症型）の早期診断と集学的治療**

「スティーブンス・ジョンソン症候群」とは、最も重症な薬疹として知られている病気で、38℃以上の発熱、全身に広がるさまざまな形の紅斑（赤みを帯びたまだら状の皮疹）とともに、皮膚と粘膜の境目（口唇・陰部・眼の粘膜など）がただれる症状がでます。重症化して皮膚のただれが拡大すると中毒性表皮壊死症（TEN）と診断されます。

当科では入院のうえで原因と疑われるすべての薬剤を中止し、早期のステロイド剤の全身投与（内服もしくは注射)、免疫グロブリン大量静注療法、血漿交換療法などを組み合わせた集学的治療を行います。抗結核薬など代替薬のない薬剤による薬疹では、他科や薬剤部と協力して、減感作療法にも取り組んでいます。

- **皮膚腫瘍の手術治療と病理診断**

皮膚外科手術を積極的に施行し、遊離植皮・有茎皮弁など患者様の状態・部位・病気に応じてより良い手術を心がけています。悪性腫瘍については、手術治療とともに放射線治療、化学療法により集学的治療を行います。広範囲な疾患を、皮膚臨床所見や病理所見より早期診断し、重症例では入院の上多角的な加療を行っています。

皮膚科　診療科長：末木　博彦（Sueki Hirohiko）
趣味：旅行、エアライン

患者さんには診療所と当院に２人の主治医を置いていただき、症状が安定した方、お薬でコントロールが可能となりましたら紹介元の先生に逆紹介をさせていただき、双方向の病診連携を目指しています。地域の先生方と昭和大学病院の双方が最大限に機能を発揮できるよう、ご協力とご指導をこれからも宜しくお願い申し上げます。

## リウマチ膠原病母性外来のご案内

# 妊娠を考えるリウマチ膠原病の方の専門外来

「自分の体の事も心配だけど、やっぱり子供を産みたい」という女性の患者さんのお手伝いが少しでもできたらと、リウマチ･膠原病内科では「リウマチ膠原病母性外来」を開設しています。産科の先生と連携を図りながら、よりよい妊娠・出産にむけて診療を行っています。

### 対象の患者さん

リウマチ膠原病の患者さんで、「妊娠」、「出産」を考えられている方

＜対象の主な病気＞

関節リウマチ、若年性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎混合性結合組織病、血管炎症候群（結節性多発動脈炎、ウェジナー肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、大動脈炎症候群)、ベーチェット病　など

### 治療について

関節リウマチや膠原病は治療の進歩により、近年は患者さんの QOL（生活の質）を高める治療が行えるようになってきました。その中で若い女性患者さんにとって妊娠・出産といったライフイベントと治療の両立はとても大切なテーマであります。関節リウマチや膠原病の患者さんが妊娠を希望された際は、妊娠前に病気の活動性や障害臓器の程度をしっかりと調べていきます。場合によっては妊娠に向けて治療を強化することもあります。母体の病気の活動性が安定していることがより良い妊娠結果につながりますので、妊娠中は妊娠に伴う体の生理的な変化を意識しながら治療を行っていきます。産後は母乳育児のメリットも考えた上で薬の選択を行い、病気の治療を行っていきます。妊娠・出産を希望された際はご相談ください。

### 予約の手続きについて

◆外来日：毎週水曜日午前・木曜日午前（完全紹介予約制）

◆「紹介状」と「予約」が必要です。医療連携室（03-3784-8400）にお電話いただき、「リウマチ膠原病母性外来」のご予約をお取りください。

◆担当医：斎藤 麻由、三浦 瑶子(写真左)、磯島 咲子(写真右)

## 今月の熱血医療人 Vol.10「抗菌化学療法認定薬剤師」

～このコーナーでは専門資格を有している熱血メディカルスタッフの方を紹介します～

### Q. どういった専門資格でどういった仕事をしているのか

昭和大学病院の感染管理部門は、ICT（感染制御チーム）と AST（抗菌薬適正使用チーム）という 2 つの多職種で構成されるチームで活動を行っており、私は標記の認定薬剤師としてどちらにも所属しています。AST では血液培養陽性者を全て把握し、適切な治療がなされているかを確認・介入し、広域で効果を発揮する抗菌薬使用患者さんへの適正使用を推進しています。患者さん個々の病気や身体の状態によって、使用する薬剤の選択や用法・用量が異なるため様々な専門的知識が必要となります。

内藤　結花さん

### Q. 患者さんに対してのメッセージをお願いします。

抗菌薬は皆さんにとってとても身近なものだと思います。しかし現在、耐性菌と言って抗菌薬が効きにくい菌が増えてしまっています。その原因のひとつとして、抗菌薬の乱用があります。お医者さんに抗菌薬を処方されたら、残さず飲み切る、人にあげない、の 2 つをお守りください。未来の子ども達に有効な抗菌薬を残すためにも、皆さんで注意をしましょう。また、現在肺炎球菌など有効なワクチンで予防ができるものもあります。感染症にかからないように予防をすることも抗菌薬乱用を防ぐ第一歩です。

## 今月の「ありがとう」 Vol.2
## 「病院警備スタッフ」

～このコーナーでは病院を裏で支える、
医療スタッフの業務紹介、エピソードを紹介いたします～

### Q. どういったお仕事に携わっているのですか？

警備を担当している株式会社パトロールサービスです。平時は鍵の貸出をはじめ、出入管理、車両案内、駐輪場の整理、電話交換業務等と多岐にわたる活動をし、ひとたび緊急事態が発生すれば管理課や監視室の方と連携をとり、現場確認を実施し、迅速な対応に当たっています。また、併せて４月から夜間の事務当直業務を我々と救急受付で行っており、医療スタッフの一員として、皆さんが安心・安全に医療行為を行えるよう、24 時間体制で奮闘しております。今後も、きめ細かい対応を心掛け、尽力していきますので、よろしくお願いします。

（左）故引　裕さん　（右）石田　学さん

### Q. 何か思い出に残るメッセージをお願いします。

手がかじかみそうな寒い日、タクシーの乗り降りの補助を行っていると、ある患者さんが乗車しに来られました。その方は何度か入退院を繰り返しており、タクシーを利用する際は手伝い、挨拶をします。この日は「今日退院でこれからしばらくは来ないよ。寒い中ご苦労様、いつもありがとう」とドアを掴んでいない片方の手を両手で力強く握ってくれました。思いがけない出来事に驚きましたが、今でも仕事の励みとなっています。

いつも私たちを見守っていただき
ありがとうございます！！
スタッフ一同

## 「こどもの日会」開催の報告

５月２日（火）、入院棟４階小児医療センターでこどもの日会が行われました。当日は鯉のぼりの工作や、こどもの日に因んだ紙芝居のおはなしを聞いて、こどもたちは楽しい時間をすごしました。

【紙芝居を聞いている様子】

【手作りの鯉のぼり】

## 「看護の日」開催の報告

５月 12 日は看護の日です。近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に由来しています。また、看護の心や助け合いの心を老若男女問わず、誰もが育むきっかけとなるようにと制定されました。

当日は看護師が大学病院、附属東病院の正面玄関に立ってウェットティッシュを配りました。

【大学病院正面玄関での様子】

【附属東病院正面玄関の様子】

【配布されたウェットティッシュ】

## 蚊の発生防止対策実施－デング熱発生防止対策－

昨年 71 年ぶりに感染が確認されたデング熱。昭和大学病院及び昭和大学病院附属東病院では、５月 26 日（金）から、デング熱のウィルスを媒介する蚊の駆除活動を開始しました。

現在行っている清掃業務に加えて、週に１度、雨どい・排水パイプのつまりの点検等、不要な水溜りをなくす、撤去できない水溜りは定期的な清掃、換水、薬剤の使用を行い、蚊の発生を防いでいます。

【蚊の発生防止対策実施の様子】

【蚊の発生防止対策実施の様子】

デング熱は、熱帯地域を中心にヤブ蚊が病気を伝染させる（媒介する）感染症です。発熱、発疹などの症状が出ますが、流行地では時に出血・ショックなど重症化が見られます。第二次世界大戦の頃までは日本国内でも流行があり、その後見られなくなったものの 2014 年に東京で流行があり、今後の流行状況に注意が必要です。

感染症内科　詫間　隆博先生

## 患者さんのご意見・要望

| ご意見・要望 | 回答 | 回答部署 |
|---|---|---|
| 入院棟の入り口にもスロープを設置してほしいです。 | ご不便おかけして大変申し訳ございません。入院棟の正面玄関へのスロープ設置について検討しましたが、構造上の問題で設置することができませでした。<br>ご不便おかけしますが、入院棟への車いす等での移動の際は中央棟から入館いただき渡り廊下を通っていただきますようお願い致します。 | 管理課 |
| 外来の待ち合いのコンセントを使って携帯電話の充電をしている人がいましたが良いのでしょうか？ | 貴重なご意見ありがとうございます。<br>以前にも同様のご意見を頂戴し、外来待ち合いフロアの全コンセントにカバーを取り付け、「私用禁止」と明示しておりました。今後も外来スタッフと連携し、注意を促していくよう努めて参ります。 | 管理課 |
| 今日うれしくも退院です。若い先生からベテランの先生までが一丸となって病気治療に取り組む姿はいつも感動させられっぱなしでした。沢山書きたいことはあるのですが、とにかく感謝の気持ちでいっぱいです。本当に皆様、先生方ありがとうございます。 | ご満足いただけて本当によかったです。今後もこのようなお言葉をいただけるよう努力してまいります。 | 消化器・一般外科 |

## 糖尿病教室について

昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院では糖尿病の専門スタッフ（医師・看護師・管理栄養士）がわかりやすく講義を行い、糖尿病について学ぶことができる糖尿病教室を毎月開催しております。興味のある方はぜひご参加ください。

■開催日時：毎月第２水曜日 15:00～16:30
※６月は第三水曜日、９月・２月は第一水曜日です。
■場　　所：昭和大学病院 中央棟７階　教育研修室
■持 ち 物：筆記用具 電卓（持参可能な方）
■そ の 他：参加費無料 申込手続き不要（当日会場に直接お越しください）

## スケジュール

| 日　程 | | テ ー マ |
|---|---|---|
| ４月１２日 | １１月８日 | おくすりのお話！～のみぐすり編～ |
| ５月１０日 | １２月１３日 | おくすりのお話！～注射薬編～ |
| ６月２１日 | １月１０日 | メタボリックに気をつけよう！ |
| ７月１２日 | ２月７日 | 糖尿病の合併症のお話！～しめじ編～ |
| ９月６日 | ３月１４日 | 糖尿病の合併症のお話！～動脈硬化編～ |
| １０月１１日 | | 糖尿病と認知症のお話！ |

## 編集後記

文責：管理課

爽やかな風を運んできてくれた新人たちも職場にようやく慣れてきました。６月は衣替えの季節でもあり、田植えの季節でもあります。６月に休日が無いのは田植えの繁忙期だからとの説が言われています。当病院の近辺ではなかなか田んぼを見ることはできませんが、草木がすくすく育つ様子は見ることができます。６月に大きく伸びる草木のように、４月に入ってきた新人たちはどんどん成長していきます。その様子を見守るのは大学病院における大きな楽しみの一つです。　　大嶽　浩司

### 昭和大学病院･附属東病院の理念

- 患者さん本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

### 昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員：　荒川 千春、飯田　真由、磯飛 雄一、稲垣　克記、大嶽 浩司、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、中村 清吾、平野 勉、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡（50 音順）